

TOTTORI UNIVERSITY HOSPITAL CENTER FOR CLINICAL RESIDENCY PROGRAM

鳥取大学医学部附属病院

研修センターだより

鳥取大学卒後臨床研修センター

第35号 2019年10月29日発行

鳥取大学医学部附属病院卒後初期臨床研修における研修理念

将来、医療現場のリーダーとしてふさわしい安全・安心で、最高・最適な医療を提供できる優れた医療人となるために、

1. 医師としての高い倫理性・道徳性を修得する。
2. 常に患者および家族の立場に立ち、医療を実践する。
3. 日常診療で頻繁に遭遇する病態・疾患に適切に対応できる基本的臨床能力（知識、技能、態度）を修得する。

※第35号の紙面※

●ご挨拶

- 1~2ページ 卒後臨床研修センター長 前垣義弘
 ●ニュース・行事・話題
 2ページ 平成31年度臨床研修合同説明会
 2ページ 鳥取県医師会主催の「研修医歓迎の夕べ」が開催されました
 3ページ 令和元年度卒後臨床研修センター納涼会
 烏取大学医学部附属病院 研修医1年目 増田興我
 3ページ 第12回鳥大JMECCを開催しました
 4ページ 専門研修プログラム領域別説明会の開催報告
 卒後臨床研修センター 専門教育研修部門 井岸 正

●シリーズ

- 5ページ 研修医日誌
 鳥取大学医学部附属病院 研修医1年目 青野将太
 5ページ 研修医今昔物語～私の研修医時代、そして今～
 胸部外科診療科群 鈴木喜雅
 6~7ページ 医局探訪～小児科～
 小児科統括医長 美野陽一
 7ページ 新コーナー！職員食堂～Gozzoの食レポ～
 8ページ 2019年度後期行事予定
 8ページ 編集後記

ご挨拶

卒後臨床研修センター長 前垣 義弘

研修医の皆さん、こんにちは。今年4月に卒研センター長に就任しました。私たち卒研センタースタッフ一同および全診療科の医師や看護部、他の医療スタッフで皆さんの研修が意義あるものとなるようにサポートいたします。

初期臨床研修の2年間が皆様の医師としての基礎を身に付ける上で非常に大切な期間です。第一に、受け持った患者さんの病気についての医療的知識や

診療技能をしっかりと身に付けて欲しいと思います。その病気の診療ガイドラインに沿った治療を行うことはもちろんですが、疾患の原因や病態、治療を整理して学ぶ姿勢をこの時期に身に付けると、一生涯に渡り知識を新たにできる優れた臨床医となることでしょう。患者さんには常に謙虚であって欲しいと思います。第二に、主体的に診療に関わってほしいと思います。初期臨床研修においては、治療方針や処方など指導医と相談しながら行いますが、診断や治療についての自分の意見を指導医にぶつけてほしいと思います。また、上級医の指導は謙虚に受けながらも、必ず後で教科書を確認する習慣を付けてください。第三に、患者さんの痛みが分かる医師になってほしいと思います。患者さんを、病気を持った人として見るのでなく、人生を歩んできた人としての尊敬の念を持って接してほしいと思います。患者



さんが大切にしているものに思いを馳せる、つまり患者さんの人生に興味を持ってほしいと思います。第四に、チーム医療をしっかり学んでほしいと思います。医療行為は、医師の指示のもとに行われますが、看護師や検査技師、リハビリスタッフ、他のコメディカルは上下関係ではなく、相手の立場と専門性を理解したチームの一員として関わってほしいと思います。良い関係性が構築されると、医療スタッフから患者さんの重要な情報や自分の思い違いなど

を教えてもらえるようになります。コミュニケーションも含めた医療のプロフェッショナルを追及してほしいと願っています。

初期臨床研修は、短期間のうちにローテートを繰り返すためストレスフルな日々ではありますが、私たちは皆さんが良き医師となるべく支援を惜しません。困ったことがあれば何でもご相談ください。皆さんのが未来に羽ばたいてゆくことを楽しみにしています。



ニュース・行事・話題

平成31年度臨床研修合同説明会

2019年4月12日に卒後臨床研修センター 臨床研修合同説明会を記念講堂で開催しました。説明会では、前垣センター長の開催挨拶に続き、第1部で2020年度に実施される初期臨床研修の変更点と、鳥取大学医学部附属病院の8つのプログラムについて



説明しました。また、第2部では鳥取大学のたすきがけプログラムの研修先となる基幹型病院の説明、第3部では個別ブースでの説明が行われました。

参加した医学部は医学部5年生 51名、6年生 46名の合計97名でした。研修制度の変更が予定されていることもあり、参加学生は熱心に情報収集してくれました。

また、初期研修医は院内外から49名、後期研修医は17名、指導医等医師は61名が参加しました。各病院・診療科での研修について熱心に説明をしていただきました。ご協力ありがとうございました。



鳥取県医師会主催の「研修医歓迎の夕べ」が開催されました

2019年6月6日、例年通り鳥取県医師会の皆様が研修医の歓迎会を開催してくださいました。鳥取県内で研修中の研修医が招待され、国際ファミリープラザに集いました。鳥取県医師会理事の山本一博先生司会のもと、「地域医療における医師会活動について」と題して講演があり、その後パンケットに移動して歓迎会がありました。歓迎会では、研修医1人1人が1分間スピーチを行いました。それぞれの自己紹介や抱負に、鳥取県医師会の方々の温かい拍手があり、若い先生方を歓迎してくださっているのを感じました。



令和元年度卒後臨床研修センター納涼会

鳥取大学医学部附属病院 研修医1年目 増田 興我

2019年8月2日(金)、米子全日空ホテルにおきまして、令和元年度納涼会を行いました。この納涼会は卒後臨床研修センターの教員・職員の方々および当院研修医によって毎年開催されております。これまで職場でしか顔を合わせることのなかった面々がお酒も入って少し饒舌に、和気あいあいとした雰囲気の中で研修について思っていることなどを話し合う、とても有意義な会となりました。普段の真面目な雰囲気の中では話しづらい、少し踏み込んだ日頃の想いや考えを共有できたのではないかと思います。参加してくださった皆様、ありがとうございました。



第12回鳥大JMECCを開催しました

2019年4月6日(土)、新年度最初の土曜日に第12回目となる鳥大JMECCを開催しました。

JMECCは日本内科学会認定の救急講習会でICLS講習会の内容と内科の様々な救急疾患への対応を反復練習し、1度の受講でICLSとJMECCの受講認定が受けられます。

年2回開催のうち、毎回春の回は1年目研修医のプレローテーションとしても組み込んでおり、受講生のほとんどが研修医となります。今年は1年目7名(院内で研修をスタートする全員)とたすきがけプログラムで戻ってきた2年目研修医5名の12名で受講しました。

1年目研修医は緊張していましたが2年目研修医はさすが、インストラクターの質問にも臆することなく答え、てきぱきと手順よく処置を行っていました。

緊張の中にも1年目の「これから頑張る！」という気持ちが垣間見えた春の一日でした。



専門研修プログラム領域別説明会の開催報告

鳥取大学医学部附属病院 卒後臨床研修センター 専門教育研修部門 井岸 正

例年行われている鳥取大学医学部附属病院専門研修プログラム領域別説明会を8月3日(土)に記念講堂にて開催いたしました。19基本領域中で、鳥取大学では基幹施設として17領域でプログラムを提供していましたが、来年度からは形成外科プログラムも新たに承認される見込みであります(原稿執筆時)。そのうち16領域から多くの先生方にご出席いただき、参加者への丁寧な説明をしていただきました。

研修医等の参加者は34名で、その内訳は、鳥取大学医学部附属病院研修医13名、関連病院研修医20名、医学部生1名であります。例年は鳥取県と島根県内の研修医の参加がほとんどですが、今年は兵庫県からの参加が2名あり、嬉しく思ったところであります。令和2年度の研修開始の対象となる研修医2年目の参加は、鳥取大学医学部附属病院で8名、関連病院研修医で13名であります。昨年と同様に当院の研修医の参加が少ないと印象ですが、すでに進路を決定している人が多いためであろうと推測しています。一方、関連施設の2年目の研修医の参加は比較的多く、専門領域を選択するにあたり、情報を求めておられたと考えます。本説明会は次年度に専門医研修を開始する研修医の参加を最も多く見込んでいました。鳥取大学卒業生で山陰での研修医

2年目の数は昨年度がピークであり、今年度のその数は減少しています。プログラム説明会への参加研修医の減少を予測していましたが、今年の参加者は昨年度の32名を上回り、研修医の皆様の熱意を感じたところであります。

専門研修病院を選ぶにあたり、説明会を情報源とするとのアンケートの回答が多くありました。この説明会が、専門研修プログラムを選択するにあたり有用な情報を得る機会となり、プログラム責任者や指導医と直接面談することで、よりスムーズな意思決定への一助となれば幸いです。

今回の説明会で「令和2年度鳥取大学医学部附属病院専門研修プログラム」冊子に加えて、鳥取大学医学部附属病院の各診療科の特徴を詳しく伝える「TOTTORI UNIVERSITY HOSPITAL 診療科案内 2019」を参加者に配布させていただきました。説明会での情報に加えて、これらが鳥取大学の専門研修プログラムや専門領域選択の際に役立つことを願っております。

最後になりましたが、週末にも関わらずこの説明会に出席いただいた研修医や先生方に、この場をお借りして感謝申し上げます。



研修医日誌

鳥取大学医学部附属病院
研修医1年目 青野 将太



研修医1年目の青野将太と申します。私は自由選択プログラムを選択し、現在大学病院にて内科を中心に研修させていただいております。元々福岡県出身、福岡大学卒業のため鳥取県とは縁もゆかりもなかったのですが、学生時代の臨床実習中に皮膚科に興味を持ち、指導体制が整っている鳥取大学医学部附属病院に勤務先を決めました。見知らぬ地で知り合いもおらず不安でいっぱいでしたが、親身に話を聞いてくれる同期や2年目の先輩、丁寧にご指導して下さる上級医の先生方に恵まれ、今となってはストレスなく研修生活を過ごすことができています。また、研修医となってすぐは病棟業務に関する知識が全くなく電子カルテの使い方や内服・点滴のオーダー、コンサルテーションの仕方もまならない状態でしたが、上級医の先生方に一から丁寧に教えていただき、少しずつスムーズに業務にあたることができるようになってきたのではないかと思います。

大学病院の研修ではcommon diseaseを見る機会は市中病院と比べ少ないと思いますが、難治例や合併症の多い複雑な症例の経験をさせていただけます。そうした個々の症例での様々な病態に対して思考し、指導医の先生との検討、カンファレンス・回診でのプレゼンテーションを通して、必要な検査や治療方法へのご指摘をいただくことで、日々自分に足りないことを実感し大変勉強になっております。

研修の目標は人によって異なるものだと思いますが、自分の能力ではできない検査や治療が必要な患者さんを診た際、自分で診察しアセスメントをして、誰に相談するかというプロセスを学ぶことは共通して大切なことだと思います。それには教科書の知識だけでなく多くの経験が必要であり、今がその経験を集め将来の自分の基盤を形作る大事な時期であるため、今後も1つ1つの症例に対して熟考し、ひたむきに向かい合っていきたいと思います。

まだまだ未熟であり、ご迷惑をおかけしてしまうこともあると思いますが、日々研鑽を積み円滑に診療を行えるよう邁進していきたいと思います。

研修医今昔物語 ~私の研修医時代、そして今~

胸部外科診療科群 鈴木 喜雅



私は平成4年に鳥取大学を卒業し、鳥取大学第二外科(現在の心臓血管外科・胸部外科)に入局しました。できの悪い学生でしたが、人の命を救いたい気持ちは持っていました。進路についてはいくつか悩みましたが臨床実習の中で、人の生死を直接経験することで循環器および呼吸器系の管理ができるようになれば救える命も増えるのではと考え、第二外科の門をたたきました。

研修医時代は何もできない自分に折れそうになったことも幾度もありました。急性大動脈解離、大動脈破裂、急性心筋梗塞と押し寄せる波のように急患がやって参りました。当時はMEさんもいませんでしたので、自分たちで人工心肺を組み立て、自分たちで心筋保護液を調合しておりました。また、緊急手術では止血に難渋することもしばしばで、医学部の学生さんや自衛隊の方にお願いして生血の採血を毎日のようにやっていた記憶があります。そんな当時の忘れられない思い出があります。急性大動脈解離で大動脈基部破裂を発症した患者さんに対して緊急手術を行ったのですが、最終的に命を救うことはできませんでした。一通り落ち着いて医局に戻ると当時の教授が医局で瞑想していらっしゃいました。私から声もかけることもできず、その場を離れようとしたとき教授から声をかけられました。「救えなかった患者さんのことは決して忘れてはならない、このことを胸に刻みなさい。」と教えられたのです。

当時は、教授の言葉にピンときていませんでしたが、その後臨床医として数々の患者様に対峙していくことで、失敗にこそ大切なことがあることがわかつていったように思います。時代は変われど本質部分は同じではないかと思います。現在は、想像もしていなかった乳腺を担当しておりますが、「患者さんは何よりの教科書」を座右の銘として頑張っております。見て聞いて、諸先輩の経験も自分の経験値とするような貪欲さで頑張ってください。

医局探訪

～小児科～

統括医長 美野 陽一

こんにちは。小児科です。皆さん、小児科ってどんなイメージがありますか？赤ちゃんから中学生まで、はたまた診療現場では親御さんの相手まで、幅広い年齢層を相手にする、ちょっと大変なイメージを持っておられるかもしれません。確かに小児医療は誕生（もしくは胎児期も）から成人までの長~い視点で子どもをサポートする総合医療の役割を担っています。また“子どもの発達・成長”という成育医療の側面も持ち合わせた多様性をも含んでいます。それだけにとっても奥の深い、非常にやりがいのある診療科だと自負しています。

の中でも鳥取大学医学部附属病院における当科の役割としては、専門分化における高度医療をはじめ、育児支援や予防医療、小児救急医療、重症児集中治療まで多岐にわたる医療を提供しています。簡単にではありますが、当科の紹介をさせてください。

外来では毎日初診・一般再来患者外来を行っており、加えて各専門外来を午前・午後に行ってています。専門外来は、循環器疾患、1ヶ月健診、肥満、内分泌・代謝疾患、血液・悪性腫瘍疾患、肝・胆道/消化器疾患、フォローアップ外来、乳幼児健診、腎・泌尿器・膠原病疾患に分けて行っています。

小児総合病棟においては、中国・山陰地方の小児医療を総合的に行う診療部として重要な役割を担っており、小児内科系と外科系の枠を超えて診療各科が共同して診療を行っています。また肺動脈弁狭窄

症や動脈管開存症をはじめとする心臓カテーテル治療、白血病・悪性腫瘍に対する造血細胞移植や経皮的肝生検・腎生検など、各専門領域における高度医療が行われています。総合周産期母子医療センター新生児部門は、12床の新生児集中治療施設(NICU)を含む27床を有し、中国・山陰地方の新生児医療の中核施設として機能し、年間350~400例の病的新生児の管理が行われています。多胎児や出生体重1,000g未満児の管理に加えて、当院外科系各科の協力のもと外科疾患症例に対する治療も積極的に行っております。新生児集中治療後も、小児科と密な連携を取り継続的なサポートを可能にしております。

小児疾患は極めて多様化しており、糖尿病、肥満や高脂血症などの生活習慣病などの疾患にも対応しています。また長期の入院生活が必要な患児に対して、就学年齢の児を対象とした院内学級が小児総合病棟に常設されており、就将小学校、湊山中学校から教員を派遣していただいている。病棟内プレイルームにおいて、未就学児を対象とした専任保育士によるケアも実践されています。このように近隣病院との連携、県市町村など行政との連携を密にし、医師、看護師、助産師、臨床心理士、保育士などの医療者が協力して、子どもたちやご家族と健康の喜びを共有できるよう尽力しています。



2019年9月より難波範行先生が小児科教授に着任されました。診療のみならず、研究とともに高度医療を担う地域の中核施設としてさらなる研鑽を重

ね、小児医療の発展に貢献していくよう頑張っています。今後とも新しい小児科を是非よろしくお願いします。



2019年9月1日に鳥取大学医学部小児科学教室（現：鳥取大学医学部統合内科医学講座周産期・小児医学分野）の第五代教授を拝命いたしました難波範行と申します。

私は岡山大学を卒業後、岡山大学、千葉大学、Washington University in St. Louis、大阪大学で一般小児科学、新生児学、分子細胞生物学、糖尿病学、骨代謝学、小児内分泌学を学び、内分泌学、成長障害、カルシウム・リン代謝、骨系統疾患を専門としております。高度な専門診療を行うと同時に、患者さん一人ひとりのプロブレム（困りごと）に真摯かつ総合的に向き合うことを心がけてまいりました。鳥取大学におきましても地域のこどもたちに常に最善の医療を提供すべく、教室員とともに精進していきたいと思います。

新コーナー！職員食堂GOZZOの食レポ～マーラーチャンポン編～

新コーナーの記事を任せられました卒後臨床研修センターの原田と申します。

9月19日～20日限定のマーラーチャンポンを食レポしました。見た目は赤くて辛そうですが、辛いだけでなく山椒がきいており美味しいかったです。麺が見えないくらい野菜がたっぷり入っていて、食べ応えがありました。辛い物が苦手な方でもおいしく食べられる商品でした。



辛さ★★☆☆☆



甘さ★★★★☆

食後に月替わりのパフェも注文しました。

今日はキャラメルブラウニーパフェで、今まで食堂で食べたパフェの中で1番好みの味でした。

2019年度後期行事予定

日 程	行 事
10月1日（火）	第4回卒後臨床研修委員会（マッチングリストの承認）
10月17日（木）14時	医科マッチング最終公表
10月22日（火・祝）	第13回鳥大JMECC
10月24日（木）14時	歯科マッチング公表
11月	マッチ学生の仮契約、採用準備、次年度研修編成開始
11月9日（土）午後	第3回結紮王～真皮縫合・結紮強度コンテスト～
11月22日（金）17時	鳥取県臨床研修セミナー（於：鳥大病院）
12月2日（月）17時	第2回医師研修管理委員会
12月14日（土）～15日（日）	令和元年度臨床研修指導医講習会
1月	卒後臨床研修委員会（ベストレジデント賞、優秀指導医賞の承認）
1月29日（水）17時	第3回医師研修管理委員会（次年度研修・研修補助金割振り承認）
1月31日（金）17時	レポート提出及び1月までのEPOC入力締切り
2月～3月	鳥取大学卒後初期後期合同臨床研修説明会
3月中旬	卒後臨床研修委員会（修了判定・R3年度プログラム承認他）
3月17日（火）16時	医師研修管理委員会（修了判定・R3年度プログラム承認他）
3月19日（木）17時	歯科医師研修管理委員会（R3年度プログラム承認他）
3月24日（火）16時	令和元年度卒後初期臨床研修修了式

※令和2年度

日 程	行 事
4月1日（水）	鳥取大学医学部附属病院採用オリエンテーション
4月2日（木）	プレローテーション開始

編集後記

今年度前半の研修センターだより、いかがだったでしょうか？今回は新コーナーとして、オープンから1年経つ職員食堂「GOZZO」の食レポを開始しました。レポーターは当院卒研事務でマスコットキャラクター的存在の原田さんです。また感想をお聞かせください♪

次号は年度末に発行予定です。マッチングの最終結果や3月の臨床研修修了式を内容に盛り込む予定です。毎年恒例のベストレジデント賞や優秀指導医賞についても掲載致します。また手にとっていただけたら幸いです。

なお、この研修センターだよりは当院で研修を修了した先生方にも配布しています。勤務先や住所が変更になった場合は、下記の連絡先までご一報ください。（西村 玲）



鳥取大学医学部附属病院 卒後臨床研修センター

〒683-8504 鳥取県米子市西町36-1

TEL: (0859) 38-7025 FAX: (0859) 38-6974

e-MAIL: jimsotsugo@ml.adm.tottori-u.ac.jp

URL: <http://sotsugo.med.tottori-u.ac.jp/>